

おおくきこども園 自己評価（自己チェックリストより）

※各自が取り組んだ「自己チェックリスト」を持ちより、ケース会議にて現在の実施状況をみんなで確認する。園長、主幹保育教諭のみで行うものではなく、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、今後の課題などを話し合うプロセスを大切にしていく。

第1章 総則	○	87.5%
第2章 子どもの発達	○	93.1%
第3章 保育の内容	○	83.5%
第4章 保育の計画及び評価	○	81.4%
第5章 健康及び安全	○	88.6%
第6章 保護者に対する支援	○	79.2%
第7章 職員の資質向上	○	86.5%
全体傾向	○	85.7%

自己チェック評価表より

	評価点	課題点	改善点
個人評価	相手を思いやり楽しく保育している。一人で考え込まずに意見を聞いて取り組んでいる。子どもと共に有意義に過ごしている。事故や怪我がなかった。笑顔で対応している。異年齢児との活動が盛ん。絵本や手遊びを工夫して行った。明るく楽しく保育した。毎日笑い声が絶えず明るく保育した。危険のないよう目を配った。信頼関係、スキンシップを大切にした。絵本の読み聞かせの工夫。興味、関心によつての絵本選び。保護者同士のコミュニケーションが取れるような工夫が実践できた。園児の特性の理解をしての保育が出来た。自分に与えられた職務を責任をもって行った。天候、健康管理に留意した。時間に余裕をもって出勤した。記録は誤字、脱字なく書いた。	月案、週案、クラス運営の確認不足。登園時の視診。ゆとりを持った対応。当番保育での慣れない子への対応。乳児のミルクタイムの工夫。遊びや玩具に飽きる。楽器に触れる機会が少ない。適切な発達援助、発達理解。自己判断に頼らない。自分の感情を持ち込んだ保育をしない。全体保育が苦手。気持ちの切り替え技術。保育内容、業務手順の理解。安全面に意識する。年間計画の甘さによる子どもの活動への影響。保護者との関わりが苦手です上手に関われなかった。変更事項の伝達不足。苦手な相手との交流をどのように解決していくか。	慣れない不安定な子への関わり。短時間勤務の中での保護者、子どもとの信頼関係の構築。日頃から関わる心掛け。手遊びや歌など保育技術の充実。物品配置。絵本を手の届くところに置く配慮。知識を深める。変化をつけた保育。発見や感動を大切にした保育。保護者との連携を密にする。職員間の情報交換。時間に余裕を持つ。保育のプロであること。いつも見られている存在であると認識。職員間の話し合いをもっと持つ。個性を見極めて課題に向き合う。人との関わりにおいて度が過ぎないように心掛ける。

園全体評価	<p>チームワークが良い。一人ひとりを大切にされた保育がなされている。良くコミュニケーションが取れている。明るい職場だ。感染症等、園全体に広まらなかった。キャリアを気にせず意見を出し合う。何でも相談したり教えてもらえる環境だ。職員間で新園舎での生活のより良い過ごし方を話し合った。小規模ならではのアットホームな保育。事故や怪我がなく安全な環境作りに努めている。新園舎環境。子ども達がのびのびとしている。保育の中に自然環境（野菜作り、生き物）を取り入れている。</p>	<p>保育以外の面でも周りを見て行動することが必要。行事等の打ち合わせを早めに行う。新園舎になり物品整理、配置が定まっていない。機材の取扱いの把握不足。教育要領、保育所保育指針の熟読。伝達、情報把握不足。途中入所の子への配慮。玩具の消毒方法のばらつき。新園舎になったことによる危機管理。設備を使いこなせていない。法令や園での取り決めの理解不足。</p>	<p>園全体のチームワークを心掛ける。協力して園を盛り上げ、保育に専念する。改善点、反省点を早めに話し合う。メモや説明書を活用し、誰でも使えるようにする。理論と体験の一致。0.1.2歳児と3.4.5歳児の職員間の連携。ケース会議やノートを活用する。玩具の定期的な消毒方法のマニュアル作成。常に危機管理意識を持つ。積極的に他のクラスの職員ともコミュニケーションをとる。報告、連絡、相談を密にする。人的環境としての存在意識を持つ。保育指針、理念、目標の再確認。</p>
特記	<p>園児、保護者にこの園に通って良かったといってもらえる環境、人間関係を築きたい。 危機管理への意識を向上させる決意 次年度への保育のねらい。 今年度の保育への率直な反省。</p>		